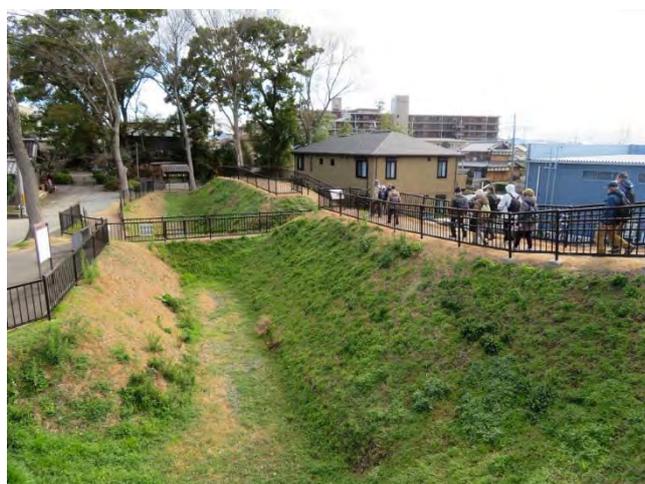
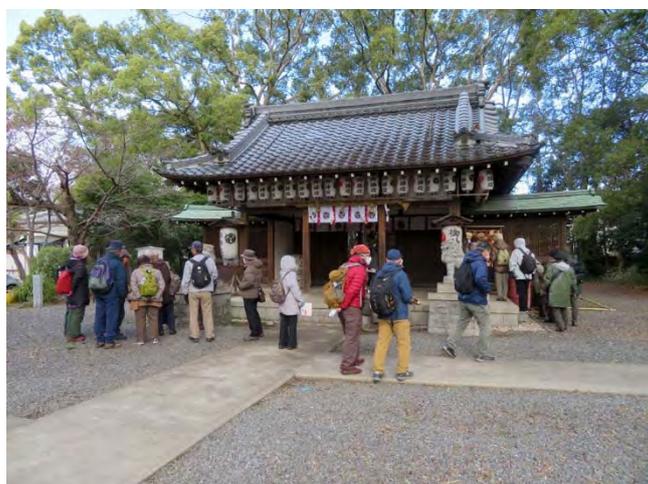


JR長岡京市に講座生4名を含む29名が集合し、地元のボランティアガイド2名の案内を受けた。生憎の西山時雨の中、山崎街道沿いにある江戸末期建設の「神足ふれあい町家」に行った。街道の趣を残した街並みが綺麗に整備保存されている。喫茶コーナーもある。

JR東海道線を潜り抜け神足神社に向かった。旧神足村の産土神で、「延喜式」に記載され、文徳天皇時代には国の官社に指定されている。その名前から「足の神様」として現在でも深く信仰されている。神足氏の居城であった神足城を細川藤孝が勝竜寺城の土塁跡と空堀及び土塁を開削する溝を作るなど手を加え勝竜寺城の備えに利用した。1992年に勝竜寺公園として整備されている。



勝竜寺城は京都盆地南西部にある古くからの要衛で京都の防衛拠点であった。織田信長が畿内を制定し細川藤孝を城主とした。藤孝は「外二重堀」を改修する等、二重の堀を持つ堅固な城に改築した。藤孝の嫡男忠興に明智光秀の娘お玉（ガラシャ）が嫁ぎこの城で新婚時代を過ごした。細川（玉）ガラシャを偲び、現在毎年11月には「ガラシャ祭り」が長岡京市最大の祭りとして開催されている。「本能寺の変」により明智光秀の属城となるが、光秀は山崎の合戦で敗れ、坂本城に兆走する途上で殺された。翌日には秀吉が入城している。



2020年1月31日 勝龍寺城跡



勝竜寺は地元の古刹である。 龍の形の注連縄が西向きに飾られている。

「恵解山古墳」は乙訓地域最大の前方後円墳である。 約 700 点以上の鉄製武器を収めた副葬品埋施設があった。 山崎の合戦で光秀が本陣にしたとされている。 現在古墳の前方部は地元勝竜寺の墓地となっている。 川の合流地点にあるこの場所は浸水被害が多発したため、時代を超え死者を水害から守る知恵であったであろう。 街道沿いの古い家は高い石を積んだ上に建てられている。 ここも公園として整備されている。



平城京後に遷都された長岡京の発見に深く寄与した中山修一氏の記念館で、発掘の歴史案内を受けた。 平城京の諸問題を解決するため短期間に難波の宮を移築したが、わずか 10 年で更に平安京へと遷都された。 幻の都であった時代に、その存在を信じた地元の高校教師中山氏等の尽力で発掘が開始され、存在を認められた。 現在も京都市内まで発掘が続く、広大な都であった。 記念館には保存品が展示され、案内ボランティアが活躍されている。



長岡京市の長い歴史を短時間で駆け抜けた後、サントリービール工場へ行き、工場見学後、無料のビールを堪能した。 製造工程の説明はイメージが主で内容は重視されていない様に思えた。

現在の長岡京市が地元の歴史を大切に保存活用しているのが良く判った。 案内ボランティアガイド方々には丁寧な説明をして頂いた。 改めて深く感謝する。